

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470501212	事業の開始年月日	平成18年1月1日
		指定年月日	平成18年1月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ横浜永田北		
所在地	(〒 232 -0071) 神奈川県横浜市南区永田北2-16-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年9月12日	評価結果 市町村受理日	令和5年10月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・毎日の清掃に力を入れ、清潔な環境整備を行っている。 現在は、感染症の影響により困難であるが、それ以前では外気浴や散歩をすることで外の空気や季節感を感じとって頂くよう心掛けていた。</p> <p>・家庭的な食事を提供し食事による色取りや季節感なども味わって頂くよう心掛けています。献立には気を配り、食事量、栄養面でも十分な配慮をしている。</p> <p>・毎日のバイタルチェック・内科・歯科の訪問診療により口腔ケアや健康管理に留意しその方にあったケアプランをもとにした個別ケアを実施している。また、医療連携体制導入により、重度化に対応できる体制を整備した。</p> <p>・感染症流行の影響により室内で過ごすことが多くなっているため、体を動かす目的で毎朝の体操は欠かさず行っている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年9月29日	評価機関 評価決定日	令和5年10月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇充実した職員育成計画 年間30分研修計画に基づき、接遇、認知症及び認知症ケア、利用者のプライバシー、身体拘束排除、虐待の防止、事故等緊急時の対応、倫理と法令遵守、感染症予防に関して学んでいる。ターミナルの時期に至った際には、医師の注意事項等を中心にターミナルケアに関する研修を行っている。</p> <p>◇適切なケアサービスの提供 利用者が安心した生活を送れるように、日々のケア、適切な医療連携と介護計画の実践に向けて取り組んでいる。身体拘束廃止に留意し、虐待防止に向けて職員の言動（声かけ、名前の呼び方、スピーチロックの有無等）に絶えず気を付け、様々なミーティングの際に話題にして職員相互に注意し合っている。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇家族との密な連携 利用者の日常の生活やレクリエーションの姿を写真と手紙を添えて毎月家族に届け、返信欄を設けて意見や要望を聞く体制にしている。利用者に体調変化等があれば、家族に即時に電話で対応を含めて情報提供している。家族面会はコロナ対応で玄関までと制限しているが、季節の衣替えは、家族に居室入室を可としている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ横浜永田北
ユニット名	壺番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はいつでも見られるように各フロアに掲示している。スタッフ会議やケアカンファレンス、日々の申し送りを通じて理念の共有化を図っている。	・事業所理念「地域に根差した魅力ある施設」を各ユニットの事務所に掲示している。 ・スタッフ会議、ケアカンファレンス等の機会に、理念に立ち戻り物事を判断するようになっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、防災訓練、運動会、お祭りに参加。また、事業所内の七夕や新年会、敬老会イベント、太鼓演奏会に子供会や地域ボランティアの方々を招待し交流している。（直近では感染症の影響により不参加となっている）	・町内会に加入しており、回覧板で地域の情報を得ている。 ・コロナ対応で地域行事への参加やボランティア受入れは約3年間中止していたが、習字ボランティア受入れ等、徐々に地域交流を復活する方向にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人に対する悩み（問題）解決に協力している。また、地域の人々が見学来訪の際に認知症介護相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	安心ネットワークへの協力や防災訓練について助言を頂くとともにそこでの意見を基に利用者が地域と交流が深められるよう努めている。	・自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表を構成員とし、2か月毎に開催することを原則としている。 ・コロナ対応で書面報告方式をとっていたが、時期を見て対面方式に切り替える予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所を運営する上で不明な点は相談し、助言を頂いている。市町村からの生保入居に対するご要望には積極的に対応し、協力関係を築いている。市町村からのアンケートにも、積極的に対応している。	・横浜市介護保険課と電話、メール等で、諸手続き、相互情報提供等、密に連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については職員に対し年2回研修を行い、正しい理解を共有している。その他、3か月に1回委員会を開催し、マニュアルを基に身体拘束をしないケアを実践、継続中である。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催し、決定内容を全職員に周知している。 ・身体拘束等の適正化に関する研修を年2回開催し、身体拘束をしない適切なケアサービスに取り組んでいる。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にしないよう努めている。事業所内や外部の研修に参加し、その情報についてはスタッフ会議で報告し、職員全員が正しい知識を持つことで虐待の防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止に関する研修を年2回開催し、虐待につながる言動について理解を深めている。 ・言葉がけ、名前の呼び方に留意し、またスピーチロックのないケアに心掛けている。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を必要とする人に対し相談にのり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等で十分な説明をし、不安なことや疑問点を尋ね、納得したうえで署名して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、写真と共に日々の状況報告書をご家族宛に送付し報告している。その他都度、必要に応じて電話等でも連絡を取り合い意見、要望を伺っている。重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、説明している。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応で家族面会が制限されて直接意見を聞く機会が少ないが、電話、メール、毎月の状況報告書への返信等で意見把握に努めている。 ・苦情相談対応の体制を整備しているが、現在まで苦情はない。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議にて意見交換を行っている。 日々の申し送りや日常業務の中でも管理者に意見が言える状況である。	・アロー委員会（施設長、職員2名）、毎月のスタッフ会議、ケアカンファレンス、日々の申し送り、日常業務を通じて職員意見を把握している。 ・可能な内容は、ケア方法、行事計画等に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が望む研修には積極的に参加を承認し、資格取得も奨励している。 個々の生活パターンに対し勤務条件の希望に応じている。 個々の能力、資格に応じた給与体系であり、公平でやりがいのある環境を整備している。	・運営法人の「報酬制度実施要領」があり、個々の能力、資格に応じた給与体系にしている。 ・管理者は職員面談を通して個々の努力や実績、仕事へのやりがいなどを把握し、就業環境の向上に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・講習会や社内の研修に積極的に参加する機会を確保している。 介護福祉士や介護支援専門員など資格取得を奨励することで職員の能力向上に努めている。	・管理者は運営法人主催の研修や外部研修への参加を奨励し、介護専門資格取得、職員の能力や意欲の向上に努めている。 ・30分研修の年間計画に基づき事業所内研修を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入することで交換実習を通じ、情報交換によりサービスの質を向上させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時やサービス初期段階では、積極的にご本人からの要望や困っていることを聞き取り、本人の状態をより正確に把握するとともに安心が得られるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期にはご家族が不安なことがあるので、積極的にご利用者の様子等を伝え安心していただき、要望やご利用者の好み・習慣等をお聞きして信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がまず何を希望しているかをよく見極めた上で、より良いサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にすることを大切にし、一緒にできることを共に行い、一方的にならないよう、理解していただいてから行動へ移すよう努力し、信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしを共にすることを大切にし、一緒にできることを共に行い、一方的にならないよう、理解していただいてから行動へ移すよう努力し、信頼関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みの家具や写真を置いている。面会には自由に来ていただき、ご家族、ご利用者が安心してくつろげる空間を作るようにしている。（現在は、感染症の影響により玄関先で短時間をお願いしている）	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の友人・知人の来訪は殆どないが、手紙、はがきの交換はある。 ・家族の協力を得て利用者の思い出の場所に行くこともあるが、コロナ禍の約3年間は外出を控えている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立してしまうことがないようにご利用者同士の交流を楽しんでいただくため、利用者同士の関係に配慮しながらトランプ・歌・塗り絵・習字・体操など職員が仲介し支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が退居してもこれまで通りの関係を継続し、管理者は常に相談に応じる態勢を整え支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアカンファレンスやアセスメント調査を定期的に行い、その方の意向を確認しつつ希望に沿ったケアプランを作成し、ケアを実践している。	・利用者の思いや意向は、入居時のアセスメント、日常の会話や家族からの情報で把握し、個別記録に記入して、職員間で共有している。把握が困難な場合は、言葉をかけ、また、動作や表情、仕草から判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前調査や入居後の聞き取りでご利用者各々の生活習慣を把握し、これまでの生活を続けていけるよう支援している。 日々の面会などでも、ご家族からこれまでの暮らしを「知る」ことに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースを乱すことなく、その時々的心身状態で「出来ることはやっていただく」を見極め、日々の見守りをするよう努めている。 個人ケース記録やバイタル表で個々の現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者とスタッフで月に1~2回ケアカンファレンスを行い、それを基に本人、家族に状況を説明、意見を反映し、計画作成とモニタリングを実施してケアプランに活かしている。	・家族、医療関係者の意見、モニタリング結果を考慮して、6か月毎にケアカンファレンスで介護計画を見直し、家族の承認を得ている。 ・状況が変化した時は、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録や申し送り帳に日々の変化や気づいたことを記録し、施設長、管理者に報告している。スタッフ間で情報を共有することで健康状態の把握、QOLの低下防止に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化により、その都度スタッフ間で話し合いを行い、改善に向けた知恵を出し合い、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事（夏祭り、運動会、防災訓練）などへ参加。地域の方々には施設行事に参加していただくなどし、交流を大切にしてお互いが安心して暮らしていけるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の同意のもと、月2回の内科往診や月4回の訪問看護、月2回の歯科往診や週1回の歯科衛生士による口腔ケアで、適切な医療を受けられるよう支援している。また、医療連携の導入により置き薬などの対応ができるようになった。	・契約時に利用者、家族の同意を得て全員が協力医をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療を受けている。通院の際は家族が対応し受診結果を電話で聞いている。 ・週1回の訪問看護ではバイタル測定や健康相談などを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護でご利用者の状況を報告し、健康管理や相談、助言を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際は、出来る限り面会の時間を作り、ご利用者の病状を把握し、病院関係者と情報交換することにより、早期退院ができるよう支援している。 複数の医療機関と協力関係の契約を締結している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的にターミナル研修を行っている。 契約時に重度化に対する対応指針の説明、同意を得ている。 医療連携を導入したことにより、重度化に対しスムーズに対応できるようになった。	・入居時に重度化した場合の対応について本人、家族に説明し同意を得ている。また、重度化した場合、家族、医師、看護師、職員が連携し「看取りに関する指針」に沿ってケアする体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは定期的に救急救命などの研修に参加し、緊急時速やかに対応できるよう実践力を身につけている。 緊急時の対応について、社内研修を実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施。夜間防災訓練も実施している。 その都度、ご利用者の身体状況に合わせて見直しを行っている。地域との協力体制も築いている。 近所の職員が多く、災害時には応援が得られる体制となっている。	・年2回夜間想定を含め、防災訓練を行っている。玄関に集合し外に避難する訓練を行っている。コロナ禍の影響で、地域の方の参加がなく、緊急時の車椅子利用者の避難誘導が課題と捉えている。	・備蓄品を整備していますが、品名、数量、賞味期限等を確認できるようリスト化して管理することが期待されません。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者はおお客様であることを忘れず、個人情報プライバシーを保護し配慮している。そのための研修も行っている。 排泄時にはプライバシーを損なわないよう対応と声かけをしている。	・5月に人間らしさを取り戻す「ユマニチュード」研修を行うなど、利用者の尊厳や誇りを損ねないよう職員の意識啓発を図っている。 ・気になる対応が見られた場合、職員同士で注意しあったり、会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の話に耳を傾け、自己決定ができるよう支援している。外出時にはご自分の好みの洋服を選んでいただく。日常生活の中で自己決定できる場面をつくるよう、お声かけし選択を促すことを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の身体状況を把握し、その方に沿った生活、食事、散歩等を個々に行っている。 ご利用者の希望はできる限り尊重し、日々の暮らしに反映できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時にはご本人の希望を聞いて、洋服を用意します。その日の気温の変化に合った身だしなみを支援している。 ご家族にも協力を仰ぎ、本人の趣向に合わせた身だしなみができるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みに合わせて味付けに配慮し、全量摂取していただけるよう支援している。 可能な限り、配膳、下膳、食器洗いも一緒に行っている。	・業者に献立や食材を委託し好みに合わせた味付けに配慮して職員が手作りしている。利用者の咀嚼の状態により普通食、一口大、刻み、ミキサー食を提供している。 ・毎月の行事食や誕生日会のケーキを利用者は楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事、水分摂取を記録して、一日を通じて十分量が確保できるよう対応している。ご利用者に合わせた食事量、好みのもの、バランス、栄養、色取り等を考えた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、週1回の歯科衛生士の指導を受けている。月2回の歯科往診を行って、感染症、誤嚥性肺炎の予防にもなっている。自身で口腔ケアが行えない場合は、その都度職員が支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう時間誘導し、できることは自分で行い自立に向けた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの排泄チェック表から排泄パターンを把握して、トイレ誘導している。 ・トイレまでの歩行や下着の着脱など出来るだけ見守り、利用者のパターンに応じて自立に向けた支援を行っている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、水分摂取の配慮を行い、適度の運動、散歩をし、自然排便があるよう支援している。便秘が続くときは、個々の状態に応じ医師から緩下剤を処方してもらうなどし、便秘の解消を図っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の希望に沿った湯温の設定、同性介護を行っている。ご利用者が入浴を希望しない場合は、無理強いをしないようにしている。入浴を楽しめるよう季節に応じて柚湯、菖蒲湯など取り入れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は週2回を原則とし、利用者の体調や気持ちを考慮してシャワーや足湯にすることもある。 ・利用者が入浴を楽しんでもらえるように、昔話をしたり歌を唄って入浴介助をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて、午後からは昼寝やゆったりと時間を過ごしていただいている。リネンはチェック表を活用して洗濯、布団干しを行い、気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが薬の目的、副作用や用量を把握し、名前、日付、時間をダブルチェックして誤薬の予防に努めている。症状の変化の確認も正確にできるよう、変化があった場合は送り帳、業務日誌に記載し、状況に応じた対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事、レクリエーションへの参加を促し、張り合いや喜びを感じていただけるよう援助している。日常生活においては、できる方は食事の準備、後片付け、洗濯物たたみなども行っている。歌が好きなご利用者が多く、歌会を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴や散歩をし、外出する機会を設けるよう支援している。外食会にも出かけ、外出支援を行っている。家族の要望により、外泊支援も行っている。（現在は感染症により中断）	・現在は、近隣の公園への散歩を再開している。また、利用者は、ベランダや、玄関脇プランターの草花に水やりをしたり、外気浴を行っている。 ・家族との遠出や外食等は、まだ、行っていない。	利用者・家族の希望を生かし、日常的な散歩や外気浴、家族との外出の機会等を増やす取組みを継続することが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、スタッフが購入したり、ご本人が使いたい場合は同行する。ご本人の希望した品物を購入できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と交流が深められるよう、電話はご本人の希望と相手側の状況を考慮したうえで行えるようにしている。 手紙のやり取りを希望される場合は、本人の希望に沿う形で支援できる体制となっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は日々の清掃で清潔を保っている。 居間や居間には季節感あふれる花を飾ったり、季節の飾り物を飾るなどして、自宅にいるような生活感、季節感をだし、居心地良く過ごせる様工夫している。	・居間に利用者が書いた習字や季節を感じるハロウィンのかぼちゃの絵、写真を掲示をしている。 ・職員が毎日清掃しているが、利用者も体に良いと自発的に掃除機がけを手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの個性と状態を把握し、食席を設定している。孤立しないよう、気の合う利用者同士が楽しく過ごせるようにしている。ホームメイト同士で話をしたり、トランプ、歌等ができるよう支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が心地よく過ごせるよう、なじみの物を身の回りに置くことで安心して頂いている。必ずカレンダー、時計、安らげるようなぬいぐるみ等を置き、やすらぎの空間を作っている。	・エアコン、ベット、クローゼット、チェストを備え、利用者は使い慣れたテレビ、家族写真、絵画等を持ち込んでいる。 ・季節の衣替えの家族入室を許可している。 ・職員が毎日清掃している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、導線には障害物を置かないこととし、普段使用する場所は、手すりが設置されている。ご本人の居室には表札がかけてあり、名前を確認する事が出来る。トイレ、浴室、エレベーター内にはナースコールが設置されている。		

事業所名	ミモザ横浜永田北
ユニット名	式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はいつでも見られるように各フロアに掲示している。スタッフ会議やケアカンファレンス、日々の申し送りを通じて理念の共有化を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、防災訓練、運動会、お祭りに参加。また、事業所内の七夕や新年会、敬老会イベント、太鼓演奏会に子供会や地域ボランティアの方々を招待し交流している。（直近では感染症の影響により不参加となっている）		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人に対する悩み（問題）解決に協力している。また地域の人々が見学来訪の際に認知症の介護相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回実施しています。防災訓練や災害時等の避難時の要援護者への要請や避難方法について助言を頂いている。グループホームの行事やイベント等について報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保入居を受け入れており日頃から連絡を密に取り合っており、サービスがスムーズに行われるよう協力関係を結んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については職員に対し年2回研修を行い、正しい理解を共有している。その他、3か月に1回委員会を開催し、マニュアルを基に身体拘束をしないケアを実践、継続中である。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にしないよう努めている。事業所内や外部の研修に参加し、その情報についてはスタッフ会議で報告し、職員全員が正しい知識を持つことで虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長・管理者・スタッフはご利用者権利擁護を守り日常生活が自立支援出来るよう支援しており、又、研修も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等で十分な説明をし、不安なことや疑問点を尋ね、納得したうえで署名して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、写真と共に日々の状況報告書をご家族宛に送付し報告している。その他都度、必要に応じて電話等でも連絡を取り合い意見、要望を伺っている。 重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・申し送り時にスタッフが意見や相談等が話しやすい状況・機会を設け、その意見を運営に反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者・スタッフの努力を把握し、給料水準・労働時間・やりがい等向上心を持って働けるよう職場環境整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミモザ（株）では総合研修所があり、定期的に研修を開催している。それらの研修を受講することで、職員の知識、スキルの向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入している。グループホーム交換実習を行い情報交換、サービスの質の向上の取り組みをしている。前年度に実施。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時は、ご本人も不安であるため、コミュニケーションを取って、本人の困っていることや要望に耳を傾け、安心して生活出来るよう関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には特にご家族へご本人の様子などを報告し、ご本人、ご家族の困っていることや要望を受け止め、家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が望んでいる事や状態を見極め、よりよいサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご利用者と生活を共にし、人生の先輩に季節感のある食事作りを教えてもらったり、又、スタッフの持っている知識を教え合ったりして共に支え合う関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいらした際に、日頃の様子もお伝えすることで、ご利用者の変化も含め理解していただき、ご家族の要望も反映し一緒に支えていけるよう努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の友人やご近所の方々が気軽に訪問・連絡が出来る様交流支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通じ、ご利用者同士が関わり合い・交流が持てるよう支援に努めている。ご利用者が孤立しないようにスタッフが配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人・家族の必要に応じて所長・管理者は相談・支援に応じることに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアカンファレンスやアセスメント調査を定期的に行い、その方の意向を確認しつつ希望に沿ったケアプランを作成し、ケアを実践している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活状況・環境を踏まえ、より近い環境の中で生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の一日のペースを守り、精神状況、健康状況を見極め日々のケアに努めている。また、状態の変化に応じた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者・職員はサービス担当者会議を行い、本人・ご家族・関係者の希望に添ったケアの提供が出来る計画を作成している。また、状況の変化については、その都度話し合い見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や状況を記録し、職員のケアの共有化・統一化を行い、サービス担当者会議にて、実践や計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族・関係者にご本人の状況や認知症についての相談等はいつでも受け入れられるようになっており、柔軟なサービス・ケアの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用しながら、夏祭り・運動会・防災訓練等、地域行事に参加しながら安全で豊かな生活が楽しめるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の同意のもと、月2回の内科往診や月4回の訪問看護、月2回の歯科往診や週1回の歯科衛生士による口腔ケアで、適切な医療を受けられるよう支援している。また、医療連携の導入により置き薬などの対応ができるようになった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて経過的观点から、健康管理・相談・助言を受ける事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携をもち、ご家族・関係者との話し合いの時間を作り、情報交換・相談、早期に退院出来る様関係づくりを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル研修を行っています。医療連携導入にて、事業所としての方針をご家族と共有している。又、重度化についてはご家族・関係者との話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に研修を行い、すみやかに対応できる実践力を身につけている。又、緊急時に備えマニュアルがあり、初期対応の訓練も行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に日中2回、夜間1回行っている。訓練には地域の方々、ご家族の参加もあり、講習会にて「消火器の使い方・非常時の連絡法」を行い、協力体制を築いている。地域へは要援護者の要請を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者はおお客様であることを忘れずに、プライバシー保護に努め対応を行っている。又、研修も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望には出来る限り添う努力をし、ご本人が自己決定出来るよう働きかけている。又、外出時はご自分のお好きな服装を選んで頂き外出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の身体状況を把握したうえでその方に添った1日のケア提供・（食事・レクリエーション）等を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を導入しており、ご利用者のご希望に添う髪型にさせていただいている。又、入浴時や外出時には、ご本人のお好みの服装を自己決定出来るよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みに合わせて味付けに配慮し、全量摂取していただけるよう支援している。食事の用意、後片付け、お盆拭き等、ご利用者の力を活かしながら行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分の摂取量を記録しており、ご利用者個々の状況を把握している。又、必要に応じて食事療法・食事形態・栄養バランスの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、月3回の歯科往診・週1回の口腔ケア指導において、口腔内の清潔保持・感染症・インフルエンザ・誤嚥性肺炎の予防に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を把握しており、声掛け・時間誘導を行い、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。又、排泄時にはプライバシーに配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維・水分摂取の配慮を行い、適度な運動・散歩をし、自然排便があるよう取り組んでいる。又、便秘が続く時は医師に相談し、緩下剤を処方して頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態を把握し、ご利用者の希望に添った湯温・同性介助を支援している。又、季節に応じて、ゆず湯・菖蒲湯等を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況を把握しており、安眠出来る環境作りを行っている。又、リネンの清潔保持・室温等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の目的・用量・副作用について把握しており、状態の変化が見られるときは施設長に報告し、医師への連絡を行い助言を受けている。又、誤薬がおきないよう確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションへ楽しく参加出来るよう支援している。又、体調を考慮し個々に出来るお手伝い（お盆拭き・洗濯たみ・行事・レクリエーション・食事の準備・後片付け）等を行っている。生活に張りが出るよう支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には個々の身体状況に合わせ、外気浴・散歩を行っている。又、ご本人・ご家族のご希望により外出・外泊を楽しむ支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のご希望に応じて、職員が買い物をしたり、一緒に外出し、スーパーでお金を使い買い物が出来る支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人にお手紙や連絡のやり取りができる支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、ミモザで年に4回環境整備を実施し、職員一同で取り組み清潔で安全な環境づくりを行っている。又、個々に合わせた照明・室温の調整、季節感を取り入れた飾り物を置いて居心地良く生活できるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間において、気の合うご利用者同士がお話をしたり、一緒にお茶を飲んだりする機会を設けている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室に時計・カレンダー・縫いぐるみ等を置いて居心地良く過ごせるよう工夫をしている。又、馴染みの物・使い慣れた物も置いて居心地良く安心出来る空間を提供している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は自立した生活が送れるようにバリアフリー化されており、安全で残存機能を活かした生活が送れるように配慮されている。		

目標達成計画

事業所名 ミモザ横浜永田北

作成日 令和5年10月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	21	家族との遠出や外食等の外出支援ができていない。	利用者や家族の希望を生かし、散歩や外気浴、家族との外出の機会を増やす取組みを継続して行っていく。	天気の良い日は近隣の公園に散歩や外気浴を引き続き行っていく。 家族の希望を生かし、外出、外食の機会を増やせるように取組んでいく。	6か月
2	16	備蓄の管理（品名、数量、賞味期限などのリスト化）ができていない。	備蓄品の品名や数量や賞味期限など確認できるようにリスト化して管理する。	備蓄担当者を決め、備蓄品の品名や数量や賞味期限などをリスト化し、管理する。 賞味期限切れにならないように試食会など開催する。	1か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。